

# きんもくせい

平成24年 学校教育だより

May **5** 第313号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会  
発行・埼玉県富士見市教育委員会  
電話・049-251-2711 (内線622)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



新入生歓迎の歌 ～先輩から1年生に向けて～

写真提供/西中学校

水谷中学校一年 内野 彩香

一緒がいいな

ちくたく回る

あと少し……  
あと少し……

：

たどりついた

長いはりと短いはり

一緒にいたい……

そんな願いは叶わない

決まった時間に二人は動く

一緒にいる時間はすぐくわずか

だからこそ

：

そのしゅんかんを

“今”を

これからの時を

大切にしよう

# める時間

指導者 勝瀬小学校教諭 後藤 輝明

わかつてはいるけれど……

みなさんは、「道徳の時間」とはどのような時間だとお考えですか。明るい？暗い？楽しい？どんなイメージでしょうか。ズバリ、道徳の時間とは、「自分を見つめる時間」です。

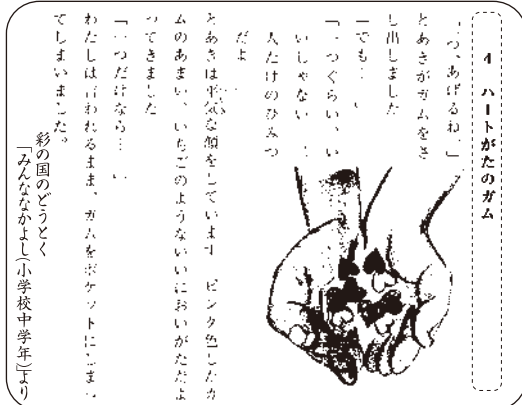
「自分を見つめる」とは、次の二つのことと考えています。  
①これまでの自分を正しく、そして厳しく振り返り、自分のよさや至らなさに気付くこと。

②「自分のよさ」はさらに伸ばすことで、「至らなさ」は克服することでよりよい自分になれること。

このように表現すると、堅苦しい感じを受けるかもしれませんが、しかし、実際の授業はそのようなことはありません。笑いあり、驚きあり、熱い話し合いが繰り広げられます。

道徳の授業を通して、「わかつてはいるけどできない」という人間の弱さに気付くとともに、「がんばってみるか」という前向きな気持ちを生み出せたらと考えます。

## 四年生の実践



「あさがガムをきし出しました」  
「でも……」  
「つくらい、いいしやない」  
「ただけのひみつだよ」  
「あさは平気な顔をしていました。ピンク色しかガムのあまい、いちごのようないいにおいがたまたまわたしは言われるまま、ガムをポケットにしまっでしまいました。」  
「……っただけなら……」  
「みんななかよし小学校中学年下り 彩の園のどうとく」

「正しいと判断したことは、勇気をもって行おうとする態度を育てる」というねらいのもと、「ハートがたのガム」という資料で話し合いました。

## 資料を通して

道徳の時間では、資料中の主人公になりきって、その出来事について考えていきます。主人公になりきることで、子どもたちは安心して意見を発表することができます。大人でも、「自分だったら」と本音を語ることは難しいです。だからこそ、「資料を使う」「主人公になりきる」ことで安心して話し合うことができます。



勝瀬小学校 5年 新井 柚衣

私達は総合的な学習の時間でバケツ稲作りに挑戦しました。毎日食べているお米を自分達が育てたら、どんな味になるのだろうとドキドキ、ワクワクしていました。夏休みの間、苗の水がなくならないようにみんなで協力して育てたので、2学期が始まる頃には80cm

## バケツ稲づくりを通して

ほどに育ちました。その時はとてもうれしくなりました。そして、大きくなった稲を秋に収穫しました。昔の道具で穂からお米をとったり、唐箕で脱穀をしました。初めて経験することばかりでとても楽しかったです。この学習を通して、農家の人達の苦勞とお米に対する愛情を学びました。



## 話し合いの場面

- T 以下において、授業中の子どもたちの発言を掲載しました。
- C1 「わかつてはいるけどできない」という人間の弱さが見えると思います。そういう風に、「弱い自分を表現することができ」る。「これが道徳の時間の魅力の一つです。」
- T 授業中、胸がドキドキしているはずみさん。どんなことを考えていたでしょうか。
- C1 もらわなければよかった。
- T どうして。
- C1 だって、今とても嫌な思いをしている。
- C2 見つからないかな。
- C3 落ちたらどうしよう。
- C4 見つからないように隠してしまおう。
- T 見つかったら大変、たということですね。
- C4 そう、先生に怒られるから。
- T では、みつからなければいいの。
- C4 それはそれでラッキーだけど、もやもやした感じ。
- T どういうこと。

二 小学校の道徳 二

わかる授業

# 自分を見つ

## 特別支援教育

### 「さくら八百屋」

関沢小学校教諭 新井 恵子

「いらっしやい！いらっしやい！」「新鮮です！」「無農薬です！」「おいしいよ！」長休み時間に元気で威勢のよい声がします。紙テープのねじり鉢巻きをきりりと締め「さくら学級」の子どもたちは大張りきり。これからネギの販売をします。交流学級の先生や登校班、クラブ・委員会担当の先生たちをわくわくしながら

待っているのです。秋のネギ苗植えからこの日までファームでお世話してきた総合的な学習の集大成の日です。一本十円、二本二十円……その場で先生方が様々な本数や支払い方、おつりを要求します。そのやりとりは絶妙で子どもに考えさせる場面があり、傍らで支援する担任にとっては大変ありがたい限りです。収

益金六百八十円はもち米代になり三学期に活用しました。「さくらファーム」では年間三十種類の作物を栽培しています。花や種の観察やスイカわり。黒ゴマを炒ってお赤飯での卒業祝いなど。畑での収穫作業は目と手の協応や力のコントロールの格好の実践の場。収穫での適切なハサミ入れ、枯れた外側の皮を丁寧にむいて洗う、長さや大ききで分ける……。さらに家に持ち帰って家族との会話や触れ合っの食事作りなど、体験が力となります。

C4 ガムをもらったことはやっぱりよくない。  
C5 それに、あきさんがガムを持つてきたこともよくないのに注意できなかった。  
T なぜ注意できなかったの。  
C5 親友だから言いづらい。  
T 親友だったら、どんなことでも言えるのではないの。  
C5 いや、親友だからこそ言いづらい。  
C6 親友にきちんと言うだけの勇気がなかった。  
T 何を言おうとしたの。

C6 「私はもらわない。」って。  
C7 「学校に持つてきてはいけないよ。」と。  
C8 私は、先生に言おうかな。何を。  
T あきさんがガムを持つてきていることと、私がガムをもらったこと。  
T 自分のことも言うの。  
C8 やっぱりいけないことだし、ひよつとしたら、あきさんがまた学校に持つてくるかもしれないから。  
T あきさんに言えばいいのではないの。

C8 さっきも出ていたけど、親友だから……。  
**主人公になりきって**  
主人公になりきっているからこそ、「勇気」に対する自分の考えをここまで話し合うことができるのです。これが、「さあ、あなたならどうする？」となってしまうは、なかなか難しいと思います。「主人公」という仮面をかぶることで安心して話し合いができるのです。安心感があることで、子どもたちはこれほど語るのです。

### スローフードとしての「道徳の時間」

今回紹介した授業で考えたことは、「学校に必要なものを持つてきてはいけない」ということではなく、「本当の勇気とは」ということについてでした。

このように道徳の時間は、「くしてはいけない」というような説教の時間ではないのです。話し合いを通して、ねらいとする道徳的価値について考えを深めていくのです。

道徳の時間は「スローフード」と言われます。じっくりと時間をかけて、将来に向け



てしなやかな人間性を身につけてほしいと願っています。

### 豊かな心を育てる教育

勝瀬小学校校長 清水 洋志  
本校では、経営方針の一つめの柱として、豊かな心を育てる教育をあげています。その中心が道徳教育です。豊かな心を育てるためには、児童の内面を鍛えることが大切です。そのために、道徳推進教師の後藤教諭を中心に、道徳の時間の充実とすべての教育活動を通しての道徳教育を進めています。この実践は、その一つです。本校では、道徳教育と特別活動を両輪に、児童に考えさせる指導を通して、豊かな心を育てる教育を進めています。

# 夢への第一歩

ふじみ野小学校保護者・教師の会代表総務 根本 美里

我が家では常日頃から将来は何になりたいか聞くようにしています。

そのことによつて目標ができて今何をしなければいけないのか、今できることは何か考えることができるからです。六年生になる長男は、宇宙やロケットに興味があり、はやぶさの話題で宇宙について以前より身近に感じられるようになったせいか、いつしか宇宙飛行士になりたいと言うようになりました。

そんな長男が、六年生の一年間、種子島宇宙センターのある種子島へ、山村留学に行くことになりました。

二年生から六年生までの募集で、年二回程あるロケットの打ち上げが見られる以外は、里親のお宅にホームステイしながら、現地の小学校に通うというものです。

最後のチャンスと思い、落選を覚悟して結果を待つ



こと三か月。まさかの内定通知に長男の

「お母さん、僕の夢の第一歩だから。」

という言葉が、今でも忘れられません。担任の先生からは「長い人生のたった一年。夢があるって、素晴らしいですよ。」

のひとことに、ここで止めたらい生恨まれると思い、行かせることにしました。

親にとつては早すぎる親離れに、決して楽な選択ではありません。将来、どんな選択をしても、この時期に親元を離れて生活した経験が、子どもの生きる力をはぐくんでくれると信じて、一まわりも二まわりも成長した長男の帰りを待ちたいと思っています。



## 心の通い合う交流学習

つるせ台小学校

本校は開校七年目の新しい学校です。開校当初から特別支援学級ひまわりと通常の学級との理解教育・交流学習が行われていました。

理解教育とは、障がいについて知る目的で、主に四年生から六年生の高学年を対象に実施しています。例えば、昨年度の五年生は「ひまわり学級のお友達を知ろう」というめあてで、ひまわり学級の児童を紹介した後、五年生の児童

童が考えたレクで一緒に遊び交流の場を設けることができました。

交流学習では、学校・学年行事だけではなく、異年齢集団活動や授業を通して、交流を深めることをねらいとしています。生活の中で一緒にいる時間を増やしたり、繋がりを深めて一人一人の良さを生かしたりすることが大切だからです。今後も、双方の教育的ニーズに応じて心の通い合



う交流学習とは何か、十分に検討し、早期からよりよい生活や人間関係が築けるような交流学習を推進していきます。

# はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

## 共に生きることの大切さ

みずほ台小学校PTA顧問 本間 雄一

と」です。

我が家には、中学二年生の娘と、小学六年生の息子がいます。娘は努力家で真面目なタイプ、そして息子は自信家で要領がよいタイプと、対照的な性格をしています。そんな二人の共通点といえば、バスケットボールに一生懸命に取り組んでいることです。二人とも、努力の仕方も違えば考え方も違います。でも二人が共に大切にしている目標は、「試合に出てチームが勝つこ

このように、兄弟でも考え方は違うのですから、友だち同士になれば、もつと考え方や価値観も違うでしょう。多くの友だちと関わることで、喜びもあれば、時に裏切られる辛い思いをすることもきっとあることでしょう。でも、人は共通の目標に向かい共に取り組むことで、互いにコミュニケーションを取り合えば、苦難を乗り越え、そして成功を

積み重ねていきます。きつと独りでは、嬉しいことも辛いことも経験は出来ません。より多くの人と関わり、いろいろな経験をすることで、自ずと生きる力は身に付きます。

子育てを通して、子どもたちから教えられることはたくさんあります。親だからと一方的な考え方を押し付ける必要もなく、子どもなりの考え方もよく聞きながら、お互いに成長していくものであると考えます。

このように、様々な経験を通して、人は人と共に生きるこ



### 地域を教材化して

子どもが地域を知り、地域の方と知り合い、地域を学ぶ学習は、子どもの心の「ふるさと」づくりになります。

本校では、地域の方との授業づくりを展開しています。

六年生の「自分の将来を見つめよう」では、地域の様々な職種の方をお招きし、仕事の内容、仕事に対する思いや願いなどその方との出会いを大切にしながら学びます。

とで、相手を思いやり。相手からも大切に思われます。そんな古(いにしえ)からの心と絆は、希薄になりがちなので、だからこそ必要なのではないでしょうか。



### 水谷東小学校

五年生では、地域の町会長さんから、町会の行事やしくみなどを学びます。そして、自分でできる「住みよい町づくり」を町会毎に話し合い、実践を目指していきます。

また、今年度は、水害を乗り越えた水谷東を伝える、地域の方の自作郷土資料集が完成します。四年生の社会科授業の教材化を目指します。

三年生は、地域の方と共に

## 教育課題特集

# 生きる力を

### スクールガードアドバイザー活動

スクールガードアドバイザー 佐久間 輝夫

学校や通学路における子どもたちの安全を確保することが目的です。

地域ぐるみで効果的・継続的な安全確保に向けた体制を整備する趣旨で実施されました。

学校・保護者、地域の連携は、一年間通じて続けても目に見える成果はあがりません。その中で私なりに自覚したのは、個人の力は小さく、子どもの安全確保には、「学校と地域の連携がいかに大切であるか」を知りました。

市内六校を巡回してみても地域差があり、保護者と地域の方が協力して見守り活動を実施している学校区とあまり関心のない学校区があります。

ボランティア活動は多くの方がシニア世代であり、子どもの安全を見守ることに誇りを持っていきます。

子どもの元気な笑顔を見て、挨拶をかわすことが楽しくなれば、見守り活動が続くようになります。健康管理に注意してこれからも活動してください。保護者については、できる

人が、できる時に実施するようしてください。通学路の安全点検と事故防止に留意してください。

最後にある先生を紹介し、登校時の子どもを見守りを兼ねて、手にレジ袋を持ち学校付近のゴミ拾いを行います。

ゴミを捨てれば街が汚れ、ゴミを拾えば街は清潔になります。

無言で、身をもって示す先生の行為を私は学びたいと思います。

学区探検を通し、危険箇所などを調べます。その後、マップを作り、発表会で一年生に伝えます。





針ヶ谷小

桜満開。希望いっぱいの入学式

さわやかな晴天の中、針ヶ谷小は4月9日に入学式を行いました。53人の新入児は緊張の中、とても行儀よく立派に式を終えることができました。

平成二十四年度が、スタートしました。各学校では、新しい学級・新しい友達・新しい先生との出会いに子どもたちは胸をときめかしています。  
小学校では、ピカピカの一年生を迎えるために、児童会を中心に準備を進めてきました。一年生の手を引く六年生の目がとてもやさしそうです。  
また、新学期のスタートと同時に学校生活のルールの定着にも取り組んでいます。  
中学校では、安全な自転車通学の仕方、小・中学校共通した靴のかかと揃え等です。  
係や委員会活動も、みんなで決めてみんなで責任を持って進めていきます。



みずほ台小

何組かな・・・～学級発表～

4月9日。平成24年度がスタートしました。「わー、一緒のクラスだよ。」「なかよくしようね。」などのことばと歓声が本校のピロティーに響き渡りました。子どもたち一人一人の瞳が輝いていました。



諏訪小

1年生を迎える会

平成24年度、諏訪小では、127名の新入生を迎えました。かわいい1年生が6年生と仲良く元気一杯に入場！希望いっぱいに、その瞳は輝いていました。



関沢小

靴のかかたそろえ「ピタ。そろえて気持ちいい。」

関沢小学校では、全員が下駄箱の靴のかかと揃えができます。新しい学年になってもしっかりと意識できています。

〓市教育相談室より〓  
『教育相談Q&A』

「あすなろ」とは、富士見市教育相談室（富士見特別支援学校三階）に設置されている適応指導教室の名称です。

この教室では、学校へ行きたいけれど行けない市内の小・中学校に在籍する不登校児童生徒の、自立と学校復帰を支援しています。

「あすなろ」は、午前九時から正午まで開室していますので、そのお子さんの状態に応じて自由に利用することができます。本やパズル等を持参するなど、等身大の自分のままで過ごせる居場所です。もちろん、勉強をしたいお子さんには支援します。今はまだその気が起きないお子さんには無理はさせませんし、当然、強要もいたしません。

このように、「あすなろ」は、一人一人の不登校児童生徒の状態に合った通い方や過ごし方を本人の意思を尊重し、保護者の方ともじっくりと時間をかけて一緒に考えていきます。

学校から離れ、活動の機会が少なくなってしまう児童生徒がいろいろな体験ができるように、「あすなろ」では、様々な行事を行っています。



勝瀬中

「活気あふれる部活動説明会」

どの部活動に入部しようかな? 4月13日新入生たちへ16の部活の先輩たちが活動内容を説明しました。(写真は、吹奏楽部)



勝瀬小

最初のたてわり活動『1年生を迎える会』

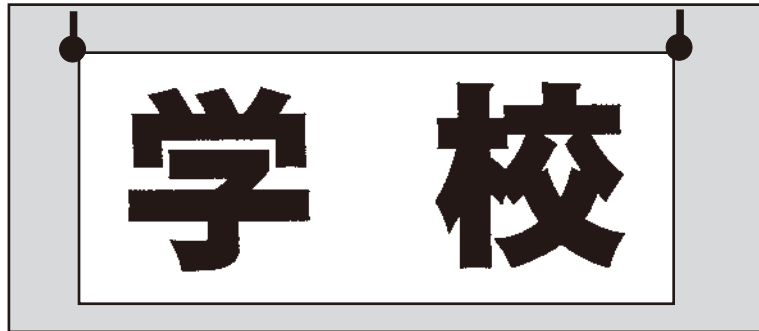
4月13日に『1年生を迎える会』が行われました。本校の児童会活動は、全校遠足、運動会、勝瀬っ子まつり、6年生を送る会と続きます。本校の特色ある活動の一つである異年齢集団での最初の行事です。



東中

東中の伝統～自転車事故ゼロを目指して～

9割以上の生徒が自転車登校をしている本校は、自転車から降りて横断歩道を渡る良き伝統があります。今年度も自転車事故ゼロを目指します。



水谷東小

いつもきれいな『くつそろえ』

水谷東小学校では、昨年より本校の課題であった身の回りの整理整頓に力を入れています。脱いだ履き物のかかとを揃えることができる児童が増え、校内にすがすがしい風が吹き始めています。



西中

クラス委員を任せたい人に挙手!

学級が開かれ、一年間責任を持つ自分の仕事を決めます。掲げた目標は「挑戦」。新入生と新任の先生による挑戦の舞台が幕を開けました。

〈開室期間と主な行事〉

一学期 四月九日から七月六日

始業式、芋苗植え、田植え、種まき、大掃除、避難訓練、難波田城公園内古民家での宿泊体験活動、学校給食センターでの昼食会、終業式等

二学期 九月三日から十二月十四日

始業式、稲刈り、豊島園への遠足、おにぎりパーティー、音楽会見学、花壇作り、芋掘り、本室での宿泊体験活動、柿もぎ、終業式等。

三学期 一月八日から三月八日

始業式、餅つき、避難訓練、大掃除、お別れ会、通室証書授与式等。

以上のような行事の他、それぞれのお子さんと在籍学校との連携を大切に、そのお子さんの状態や気持ちを十分に配慮しながら徐々に学校復帰に向けた様々な取り組みを行っています。

また、通室生の保護者との面接も定期的に行っています。

通室を希望する方は、担任の先生に申し出ていただくか、本室まで直接ご連絡ください。

問合せ／教育相談室

Tel 〇四九一二五三一五三三三

担当者 指導員 深田 林

# 教育委員会だより

## 《平成24年度富士見市教育行政方針》

- 1 開かれた教育委員会運営
- 2 信頼される学校づくりの推進と確かな学力の育成
- 3 豊かな心をはぐくみ、健やかな体を育成する教育の推進
- 4 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- 5 自分の生命と身体を守る防災教育と安全・安心な教育環境整備の推進
- 6 平和で豊かな地域社会実現のための生涯学習・社会教育の推進
- 7 文化的風土をつくる郷土遺産の継承・活用の推進
- 8 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進と環境づくり

平成24年度の学校教育だより「きんもくせい」の編集委員の先生方をお知らせします。今年度も富士見市の教育理念「人間尊重」の教育を基本とし、その実現を求めて編集に携わっていただきます。よろしくお願いいたします。

- 《編集委員長》 忽滑谷美恵子 (水谷東小学校校長)
- 《編集副委員長》 大根田 良夫 (つるせ台小学校教頭)
- 《編集委員》 松波 徳美 (水谷小学校主幹教諭)
- 富田 香織 (勝瀬小学校教諭)
- 福井 智子 (富士見台中学校教諭)
- 高原 剛 (水谷中学校教諭)
- 田島 弘 (富士見特別支援学校教諭)

### ☆運動会(体育祭)♪音楽会(合唱祭)等の日程

学校名	運動会等	雨天の場合	♪音楽会等
鶴瀬小学校	9月23日(日)	9月26日(水)	10月27日(土)
水谷小学校	9月29日(土)	10月2日(火)	11月10日(土)
南畑小学校	9月23日(日)	9月25日(火)	11月14日(水)
関沢小学校	9月15日(土)	9月19日(水)	11月9日(金)
勝瀬小学校	5月26日(土)	5月29日(火)	11月9日(金)
水谷東小学校	5月19日(土)	5月23日(水)	11月10日(土)
諏訪小学校	5月19日(土)	5月23日(水)	11月10日(土)
みずほ台小学校	9月29日(土)	9月30日(日)	11月9日(金)
針ヶ谷小学校	5月19日(土)	5月23日(水)	11月10日(土)
ふじみ野小学校	5月26日(土)	5月27日(日)	10月27日(土)
つるせ台小学校	9月29日(土)	9月30日(日)	11月3日(土)
富士見台中学校	9月15日(土)	9月18日(火)	10月30日(火)
本郷中学校	9月23日(日)	9月25日(火)	11月9日(金)
東中学校	5月26日(土)	5月30日(水)	11月2日(金)
西中学校	9月16日(日)	9月20日(木)	11月7日(水)
勝瀬中学校	5月27日(日)	5月30日(水)	10月31日(水)
水谷中学校	9月15日(土)	9月18日(火)	11月17日(土)
富士見特別支援学校	5月26日(土)	5月27日(日)	11月17日(土)

《お詫びと訂正》  
3月号(312号)の「学校TODAY」リード文中の「非難生活」は、「避難生活」の誤りでしたので、ここに訂正し、お詫びします。

さて、最近の授業参観、懇談会の各学校事情をお聞きすると、廊下から教室に入らず、多くの子どもの見えていない方が多くなっていると聞く。真剣に参観している方、それ以上に学習している子ども達も迷感である。残念でならない。見つめる目、見つける目、見守る目を持ちたい。  
(忽滑谷)

中学校に入学した昨年は、新しい生活に慣れようと、自分自身のことには一生懸命だった生徒たち。一年間、多くのことを経験し、私も彼らと



### 期待

富士見台中学校教諭 恩田ルイ

もに富士見台中学校で二年目を迎えました。始業式の生徒の様子を見ると、「この一年で、大きく成長したんだな。」というのが率直な感想でした。新しいク

ラスが発表されたとき、クラス掲示前では、「青春のページ」にふさわしいドラマがありました。一年生の時の仲間と離ればなれになっても、新しい仲間

と「よろしくね。」「がんばろうね。」と笑顔で新しいクラスに入っていく生徒たち。誰もが、これから始まる新しい生活にワクワクした様子でした。その後の最初の学級活動。

緊張しているのか、とても静か。「あれ。数分前と違うぞ。担任だけがはしゃいでいるぞ。」そんな不安を抱きましたが、それは杞憂に終わりました。「先生、心配ないよ。」と無言



で伝えているかのように、その後の活動は活気にあふれていました。仲間と協力して物事を進める。人の意見にも耳を傾け、より良い方向へと心掛けていく。クラス全体の雰囲気自分たちで良くしようとしている。本当に成長しました。

「学習も行事も燃えるクラスにしよう。」クラスでは、最初にそう話しました。一年後、「このクラスで本当に良かった。」と誰もが思えるように、私自身も努力していきます。

### 編集日記

桜満開の中、新年度がスタートし、特に新一年生は、緊張や慣れない日課表に体力的にも疲れが出る頃であろう。在校生もしかりである。

子どもへの力は、逞しく無限である。とは言え、変わり目や頑張っていると思われるときこそ、保護者や教師がエネルギーを与えたい。エネルギーとは、子どもの心にストライクする愛情である。成長すればするほど子どもが求める愛情へのストライクは難しく大人の自己満足の愛情の押し売りは、感傷に過ぎなくなる

子どもの言葉や行動の中に「優しさ・親切・美しい言葉・誠実な行動」といったよいものをたくさん見つけ、子どもを日々褒め、認め、励ます大人でありたい。

さて、最近の授業参観、懇談会の各学校事情をお聞きすると、廊下から教室に入らず、多くの子どもの見えていない方が多くなっていると聞く。真剣に参観している方、それ以上に学習している子ども達も迷感である。残念でならない。見つめる目、見つける目、見守る目を持ちたい。  
(忽滑谷)